

令和5年度 事業報告書

- (1) 学校目標
- (2) 教学改革計画
- (3) 学生募集対策
- (4) 外部資金獲得
- (5) 人事政策
- (6) 経費抑制計画
- (7) 施設設備整備計画
- (8) その他

武蔵野栄養専門学校

(1) 学校目標

①学校スローガン

こころとからだに栄養を！

栄養士として必要とされる教育について、教職員はもちろん講師の先生方にもご協力いただき充実を図った。結果、栄養士としての知識や実力を図る「栄養士実力認定試験」において優秀者 6 名、優良者 13 名、全体においても全国平均を上回る成績を残すことができた。

「こころ」の部分では、現在、メンタル面で問題を抱える学生が多い中で、担任をはじめとした教職員全員で学生の相談に乗るなど寄り添った支援を行い、退学率も低減させることができ、概ねスローガンを達成することができた。

②目標達成のための優先課題と活動概要

a. 学生がより積極的に授業に取り組めるよう授業内容や授業方法の改善・充実を図る

・ICT 教育への環境整備

授業担当者のほとんどがパワーポイントを利用した視覚的効果のある授業を構成しており、中には個々のスマートフォンも活用し理解を図っている。

1 人 1 台の端末整備は費用負担の課題などもあり達成には至っていないが、今後を見据えて授業担当者側の知識の向上を課題としていく。

・実践的な職業教育

実習・実験などの実践的な授業では、授業評価アンケートの結果において満足している学生の割合が 1 年生で 90%以上、2 年生でも 80%を超えている。中でも専任の担当する授業では「授業が満足できるものであったか」という問いに対して「強くそう思う」「そう思う」と答えた割合が 95%～100%となっており、学生の期待に応えられた授業を実施できた。

・人格を育てる教育

グループワークでの他者との関わりを通じ、人として成長させることを目指したが、グループワークでは学生のやる気や向き合い方でトラブルが起きやすく、教員側の十分な説明が重要であることを感じた。

b. 分掌業務の効率化を図るとともに精度を向上させる

教育管理・募集情報・学生支援・進路開発の 4 つの分掌は組織として円滑に機能し始

めている。分掌長を含めた会議が毎週 1 回実施され業務の進捗に関する共通理解がされている。スムーズな学校運営のため令和 6 年度には分掌間の一部メンバーの入替を実施する。

c. 学生募集活動において学校の魅力を最大限伝えられるよう取り組む

広報企画部と連携し、Instagram や YouTube での学校生活や体験イベントに関する発信を積極的に実施した結果、Instagram のフォロワー数アップにつながった。広報企画部から依頼されたガイダンスや模擬授業などにも積極的に参加した。体験イベントでは各回ごとにチームに分かれ、より本校に興味・関心を持ち本校を選んでいただけるよう工夫を重ねた。

d. 教職員の時代に合わせた教育方法へのシフトチェンジ

メンタル面に不安を抱える学生も多く、一人ひとりに寄り添った支援・指導が必要である。また、既卒者の増加により教職員よりも年齢の高い学生もいるため、より丁寧な対応が必要であり担任だけに負担がかからないよう教職員全身体制で対応した。

(2) 教学改革

①中期計画に基づく実施計画

a. 社会状況、世界の動向から今必要とし求める教育の在り方、本来あるべき教科、授業内容を検討し即実行していく体制づくり

新年度に向けて、各教科担当の教員のシラバス確認を行った。

教育現場の ICT 化への対応の強化については、学内の Wi-Fi 環境整備、教材に ICT 技術を導入し、活用している授業が増えている。

b. 教育理念（身体で覚えた技術は一生を貫く）に基づく人材の育成

本校の強みでもある大量調理実習等で実践的な授業を開講している施設（給食室等）について HACCP に基づき整備計画を立て、整備の進行を予定している。

c. 教科・組織の再構成

姉妹校が隣接している強みを生かし、法人内で協力した授業を開講するため、学校間の教職員・講師の連携を進めている。当該年度は実施できなかったが、ホームメイドスイーツなどの選択授業において調理師専門学校製菓科の教員への授業依頼などを計画、今後も実施に向けて取り組んでいく。

d. 教職員のスキルアップ（外部研修、内部での研修・授業研究等）

教育の質を向上させるためには、教職員に必要な実務能力や的確な判断力の向上、知識・技術・技能やマネジメント能力などの指導力の習得・向上及び教養を身に付けた人材を育成することが必要であり、そのための各種研修等を2月・3月に実施した。

e. 社会に貢献できる人材の育成

Google Classroom の活用やメールでの配信などにより卒業生との連絡体制を整えている。管理栄養士受験準備講座を実施し、資格取得等のサポート体制の充実を図っている。

②カリキュラム改革等

a. 『人格教育・SDGs』のカリキュラムへの落としこみ

次期カリキュラムの改正では、『人格を育てる教育』『SDGs への理解』に関する内容を科目の中に組み込むことを課題とし、カリキュラム改正に向けて学内カリキュラム検討委員会を発足、活動を開始した。

b. 教育内容の ICT 化

カリキュラム検討委員会の発足とともに ICT を活用した教育内容への改革のため、事前準備として機器面及び教職員への研修も含め、検討を開始した。

c. カリキュラム内容の見直し

カリキュラムの見直しを図り、現代のニーズに合った学生満足度の高い教育内容へと、改革を進めるためカリキュラム検討委員会を発足し、教職員全体へ意見聴取を実施している。

③キャリア支援・就職支援

a. 教育環境の整備や充実化

給食室等の実践的な実習を行う実習室について、環境整備や充実を図っている。年度末には食堂のテーブル・イスの入替を実施し、食環境の整備を進めた。またトイレについても改修工事が進んでいる。多目的トイレの新規設置も完了し学生満足度に繋げる。

b. 就職支援

学生自身の将来の活躍分野や就職観について意識付けを行うため、複数回の就職セミナーや卒業生懇談会、マイナビセミナー等を企画・実施した。自己分析から就職先の選択、活動方法や指導内容は多岐に渡るため、担任以外でも対応を担う進路開発担当部署が配置され学生のサポート強化に努めた。

④学生支援・中途退学対策

a. 奨学金給付制度を利用する学生の支援

令和2年度より開始した高等教育の就学支援新制度について、対象機関としての各種要件維持および支援継続に欠かせない学習状況についての要件確認を実施し、入学生・在学生を問わず、担任および総務部担当職員にて連携しサポートした。

b. 中途退学対策

近年、退学する理由は各種あり学生対応も多様化しているため、カウンセリングの実施状況をもとに対応時間の増設・カウンセラーの増員について、NEXT EP PJ 経営上進計画委員会にて協議・承認を得た。更に具体的な要望をとりまとめ提案内容の検討を図っている。

c. 学生相談

クラス担任による個別相談の他スクールカウンセラーへの相談体制も再検討し、特にメンタル面で不安を抱える学生へのサポートは家庭と相互にサポートし、学生留意情報にて教職員間での共通理解を図っている。

(3) 学生募集対策

①中期計画に基づく実施計画

a. SNS、YouTubeなどを駆使したプロモーション、教育の視覚化

学園4校においてSNSを駆使し、高校生を中心とした入学対象者への知名度UP及び学校の理解を深めてもらう。令和8年度インスタフォロワー数10,000人以上を目標としている。特にZ世代が活用しているツールアプリのInstagramに注力し学校の魅力を多く投稿した。その結果フォロワー数は増加の途を継続しており、フォロワー数は1,135人となっている。本校の知名度向上と学校の視覚化・PRに繋げ、願書数増加の為に今後も注力する。

b. SNS、YouTubeなどを駆使したプロモーション、メディアからの企画を積極的に受け入れる

Webの強化・SNSを活用した広報活動が必要になったことで、興味が湧く魅力的なWEB媒体の作成に尽力した。Webに関しては古い記事等が掲載されており、募集情報担当内でも点検を重ね広報局と共有しながらより見やすく整理した。次年度はInstagramerの力を借りながら本校の魅力・特色である「給食」を前端的にPRできる活動をしていく。

②体験入学・学校説明会等

a. 広報局と連携した体験入学の企画立案・学生スタッフの育成

これまでの体験入学やイベント内容を精査し、今後の体験入学参加者を増加させる対策を講じる。募集情報担当が主であるが、職員と広報局が体験入学について適宜会議・打ち合わせを行い、参加者のニーズに沿った常に新しい内容を取り入れ企画することができた。在校生が体験入学手伝いに積極的に参加、参加者とのコミュニケーションが十分に図れている。毎年度初めには広報局とカリキュラムや教育についての共通理解を図っており、当年度の活動について綿密な打ち合わせをしている。体験入学実施前には広報局と栄養専門学校担当教職員において、内容とタイムスケジュールについて打ち合わせを行い当日はスムーズに進んでいる。今後も広報局・学校教職員・在校生と相互に協力・連携を図り、結果的に参加者の満足度を向上させ魅力ある体験入学にする。また、教職員が高校訪問・模擬授業や出張授業・ガイダンスに出向し高校生に対し直接本校の魅力を伝えたが、教職員の抱えている通常業務と広報活動を兼ねることは負担がかなり大きいことが課題である。

③その他の取り組み

a. 社会人入学者の募集対策を強化する。

高校３年生の人数が右肩下がりとなっている現状、社会人・大学生・他の専門学校の卒業生・中退生を標的に、学び直しなどリカレント教育にも募集範囲を広げ入学者の増加を目指す。大卒者支援制度（リスタート支援制度）を継続し募集範囲を社会人や大卒者・中途退学者にも広げハローワークや大学に向けても広報活動が必要である。

(4) 外部資金獲得

①中期計画に基づく実施計画

a. 料理教室の実施

学生（希望者）に向けた料理教室を2回実施した。12月「クリスマススイーツ・シュトーレンを作ろう」には8名、1月「グルテンフリーのお菓子・米粉のタルトを作ろう」には9名が参加し、今後料理教室を行っていくにあたってのイメージを掴むことができた。次年度は学内・学外に向けての料理教室の実施を目指す。

また、施設設備整備の一環として調理実習室のガス台改修を行った。授業の充実を図るだけでなく、学外に向けた料理教室を開催するための環境整備をすることができた。

②その他の取り組み

a. 卒業生ネットワークの構築

月に1回程度、メールマガジン（MUSASHINO NEWS）で、学校行事の情報や取り組み、学生の活動、研修・講習会等についての情報を配信した。また、卒業する学生にもメールマガジンの紹介をし、登録者数を増やすことができた。引き続き情報を配信するとともに、卒業生ネットワークの基盤となるような関係性を構築していく。

b. 出版物について

これまでの授業の実績を活用した出版物の制作を目指して検討を重ねてきたが、通常業務との兼ね合いやコスト面での課題が大きく滞っている。

c. 外部企業との連携

外部企業HPにコラムを年間で9回掲載し、外部資金を獲得することができた。今後も連携をしつつ、一定の外部資金を獲得していく。

(5) 人事政策

①中期計画に基づく実施計画

a. 教職員減員に対する取り組み

令和 5 年度は前年度からの減員 5 名分の新入職員が採用となったが、この他に育児休業取得者が 1 名おり、減員のまま教育の質を維持するべく教職員が業務を分担し取り組んだ。

b. 働きやすい環境づくり

教職員のワーク・ライフ・バランスを重視し、より働きやすい職場となるよう改革を進めてきた。有給休暇についても、取得しやすい環境が整えられてきている。業務分担の適切化を図り、今後も働きやすい職場環境づくりを目指していく。

また、学生対応は精神的な負担も多くなるため、周りに報告・相談がしやすい環境を整え、特定の教職員に負担がかかり過ぎないように「みんなで考え、みんなに対応する」といった形を重視した。

c. 定期的な会議の実施

企画調整会議・分掌会議・学年会議・実習実験会議などを定期的の実施し、教職員間の共通理解を深め、日常的な意思疎通を図った。

②組織編制・要員計画

令和 5 年度は 5 名の新入職員を迎え、校内分掌組織の人数を調整した。OJT として新入職員を迎えた組織（担任・実習実験）・分掌では上級教職員が下級教職員に業務について指導・教育し、これまでと同様に教育活動が運営できるよう務めた。

令和 5 年度末に新入職員 1 名が退職となり減員 1 名となったが、令和 6 年度には法人本部より出向する事務職員 1 名と育児休業中の職員 1 名が復帰予定であるため増員は行わない。

a. 非常勤講師退任に対する対応

非常勤講師が退任する講義科目 2 科目について専任教員が担当したが、授業評価アンケートでも満足度の高い結果が出ている。

b. 人員減に対する対応

5 名の新入職員を迎えることができたが、経験不足もあり他の教職員の業務負担は結果的には増加した。今後、新入職員のキャリアアップにより個々の負担を減少させ、業務の均衡化を図っていきたい。

③教職員研修・能力開発

日々の業務の中での OJT のほか、私学財団主催の各研修への参加、実務面での食品会社による研修（雪印メグミルク）、教育や学生支援に関するコンサルティング会社による教育や学生支援に関する研修を実施した。

④その他の取り組み

a. 53 期 2 年次のクラス編成を 4 クラスとする。

クラス替えを行い、クラス間の人数を平均して調整することで、教育環境の均一化が図れ、より効果的に授業を実施することができた。

b. 教職員のメンタルヘルスケア

近年学校を取り巻く状況は変化しており、学校をサービス業と捉え過剰な要求をする学生や、過度なクレームへの対処など教職員の心労は絶えない状況である。これが教職員のメンタル面にも影響を及ぼす要因の一つとなるため、一人で抱え込まず全体の問題と捉えて対応できるよう、対応者→直属の上司→企画会議メンバー（校長・副校長・副部長・参与・主事）へと報告・相談ができる体制を取っている。

(6) 経費削減計画

①中期計画に基づく実施計画

a. 管理栄養士受験準備講座講師料等削減

当初、管理栄養士受験準備講座の費用負担を同窓会に支援してもらうことで 50 万円の削減を予定していたが、同窓会組織の整備には少し時間をかけて行う必要があるため、取り組み内容の実施年度の入替を図った。今年度は、ビジネスマナーに関する特別講義について、学内でキャリアコンサルタントの資格取得者も増え、学生のキャリア支援に関しては学内対応も可能となった。

(7) 施設設備整備計画

①中期計画に基づく実施計画

a. トイレの修繕・改修の実施

2 号館全館の改修が計画され最上階から 2 フロア単位で工事が進められた。6F まで改修工事が完了した。きわめて快適な空間となっており、学生満足度の向上は基より学生募集活動でも良い印象を与えることが期待できる。

b. 教室環境の整備

交換が終了したブラインドは一部の窓開閉に支障を来している。903 教室は、体験入学用施設として改修され、運用が始まっている。トイレの改修と同様、募集活動でも良い印象を与えることが期待できる。

c. ICT 環境の整備

関係する機器備品は前年度で整備が完了しており、稼働に問題ないか注視した。その結果、問題はなかった。引き続き適正な耐用年数設定とその管理、故障前の購入計画立案が必要である。

d. 実習室・実験室の点検・整備

法令に基づく機器備品の設置について、一覧にまとめ管理できた。調理実習室、食品加工学実習室の修繕の他、第一実験室各実験台の給湯設備設置、クリーンベンチの購入が成された。引き続き大幅に耐用年数を超えている機器備品は、優先順位を設けて購入することが課題である。

e. 栄養士業務の根幹となる大量調理実習室の整備

食堂ホールのテーブル・イスは全て新品となり、快適で理想的なランチルームに近づいた。一方、大量調理において欠かせない回転釜、オートフライヤーをはじめとする機器類の交換が課題である。

(8) その他

①社会貢献・地域貢献活動

本校は、東京都から民間職業訓練機関として委託され、専門人材育成訓練校として、訓練生に対し栄養士としての知識・技術・技能の育成を行った。また、訓練生の就職支援を推進し、広く社会に貢献できる栄養士を輩出することができた。

また、豊島区体育協会主催の生涯スポーツ推進事業を再開しシニア対象の講習会（11月）、ジュニア世代の食育講習（2月）を連携・協力し実施した。さらに、「江東区子ども食堂」に学生を派遣し、交流を図っている。

②ハラスメントの防止計画

- 1) 教員が外部のハラスメント防止研修に参加するなど、意識を高めるよう努力した。
- 2) 様々な価値観を考慮した校則の見直しを勧めている。
- 3) 職員会議や講師会で教職員の言葉遣いや発言に関する注意喚起を行った。
- 4) ハラスメント啓蒙ポスターを掲示して、ハラスメント防止に関する方針やハラスメント委員を学生に周知した。